学ぶ、つながる、育てる

武居みさ

長野県

学生たちと向き合う

松本大学・松商短期大学、信州豊南短期大学、塩尻志学館高校、信州介護福祉専門学校などの学生たちと向き合いながら、手話、聴覚障害者の生活について、授業を進める。福祉現場の状況を伝え、一緒に考えてもらえるカリキュラムを組んでいる。自分の授業にぴったりな教科書が無かったため、無謀にも自分で作ってしまったというから凄い。彼女の実家の押入れには、たくさん刷った教科書が占領しているそうだ。

授業にも一工夫、「同年代の聴覚障害者に来てもらって、その経験や夢を語ってもらうと、学生たちの目の色が違ってくる」

この日のゲストは23歳の黒沢美怜さん。「教師を目指している」の言葉に学生から「しっかりした夢が有るって凄い」の声が上がった。

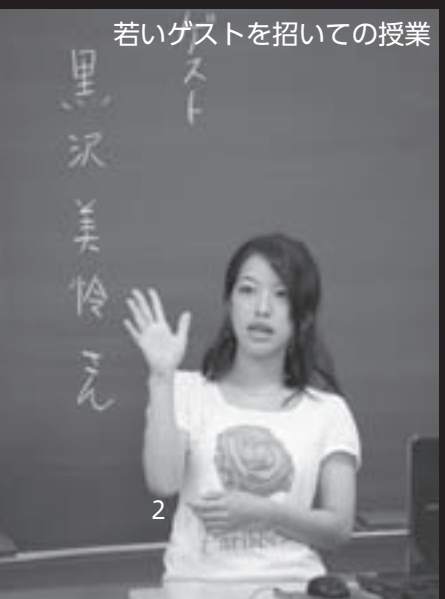
元気な聾学生の先輩と信州豊南短期大学の学生をつなぐ

授業が終わっても熱心に質問する学生

自分で教科書まで作ってしまった

障害者問題全方位

1982年、長野聾学校内にあった三輪学園で、聴覚障害部の指導員として母子教室を担当。出産を機に退職。育児の傍ら、手話講座の講師を受け、修了生とともに手話サークル「ハンドフレンドリー」を立ち上げる。自らも手話を学びながら聴覚障害者協会の活動を支援してきた。平成元年「手話通訳士」の資格にチャレンジ、合格。



若いゲストを招いての授業

松本大の講師陣は金井隆、
森下尚子の息のあった３人

テレビ信州の「市民のロータリー」収録

グループホーム「こぶなの家」の仲間と世話人さんと

年々、非常勤講師依頼も増え、介護系の短大で教壇に立った事をきっかけに、ヘルパー２級、さらにケアマネジャーの資格取得。手話通訳士協会の理事としても活動。11年前から手話サークル活動の一環として高齢者向けミニデイサービス「れんげ草」の活動も始めた。

11年前から障害者全般の福祉向上のために、有志と共に「ＮＰＯ法人春の小川」を立ち上げ、２カ所のグループホームを運営している。利用者は知的障害者が中心だが、聴覚障害者がいつでも利用できるよう、手話の出来る職員を配置しているあたりが、武居さんらしい。

グループホーム「めだかの家」の仲間と

▲囲炉裏のある長野市中条の実家

◀兄と話すときは青春まっただ中に逆戻り

▼本誌でおなじみの池内のりえさんと、行きつけのバーにて

家族そして兄

　みささんの出身は旧中条村（現在、長野市中条）。農学校の校長だった父、大久保尊（みこと）と自宅の農地をしっかり守をしてきた母、孝子（たかこ）。実におおらかな家庭で愛情に包まれて育った。そして聴覚障害をもつ兄、隆（たかし）の存在が大きい。

　学生時代、兄とともにサークルで大いに皆と遊んだ。キャンプ、ツーリング、野球、青年部の集まりなど、自然と手話も身に付いてきたという。

　「あの頃のサークルと今のサークルは違う」「今はろうあ者は先生で、あの頃は遊ぶ仲間という認識だった」「とにかく、楽しかった」兄と会うと今でも、サークル時代を懐かしんで話が弾む。

武居さんのめざすもの

　―すべての人々が、地域で当たり前の生活ができる社会の実現と平和を願って―

写真・文　豆塚 猛